

調布市景観審議会会長からの講評

意見交換を受けて、景観審議会の後藤会長から講評をいただきました。

○調布市について常々感じているのは、市民の活動意欲が高いことです。これは、今後の景観まちづくりの活動につながる、とても大きな潜在的な要素になっていくと思います。

今回の作品は景観の価値を解釈するという視点で制作されていて、目で見える以外のものを動画ならではの手法で表現できたのではないかと感じています。今後は、時代の変化とともに、動画で表現し伝えていくことが主要な手段になっていくのではないかと思います。

「景観の価値は旅人でないといけない」と言われることがありますが、現在はテレビやネットなどの様々なメディアを通し、様々な街を疑似体験でき、無意識に自分たちの街の景観と比較できる時代になってきていると思います。



後藤 春彦 先生
(早稲田大学大学院 教授)

映像作品を通じて新たに感じた調布の景観とは！

アンケートを記入いただき、映像作品を通じて、今まで「見過ごしていた」、「気づかなかった」調布の景観について、市民委員の皆さんから意見をいただきました。主なものについてご紹介します。

- ・園芸や生産緑地など市民が関わっている緑が調布の景観に大きく寄与していることがわかりました。
- ・見慣れた風景でも、異なる視点で見るとまち歩きが楽しくなると感じました。
- ・調布は飾らない緑が多いということが発見できた。人工的な緑よりも心が落ち着くのかなと思うので、この状態を維持していければと思いました。
- ・「映画のまち調布」ということをもっとPRしなければならないと感じました。
- ・今ある風景が、いつまでも変わらず保全できるわけではない。残すべき景観は意識的に保全に取り組んでいべきだと感じました。
- ・民話のような形のない景観の要素にも目を向けていく必要があると感じました。

改めて感じた
調布の景観を
見直してみよう！



今後の検討会では、市民の皆さんが身近で実践できる景観づくりのアイデアを考えていきたいと思えます。



調布市では、景観まちづくりの取組について、「ちょうふ景観だより」でお知らせしています。

発行：調布市都市整備部 都市計画課 景観係

Tel : 042-481-7746 Fax : 042-481-6800 Email : tikubetu@w2.city.chofu.tokyo.jp

ちょうふ 景観 だより



第6回調布市景観まちづくり市民検討会を開催しました！

調布市では、「調布市景観まちづくり市民検討会」を設置し、市民委員による地域特性を活かした魅力的な景観まちづくりについて意見交換しています。

本号では、平成28年10月18日(火)に開催した「第6回調布市景観まちづくり市民検討会」についてご紹介します。



第6回調布市景観まちづくり市民検討会を開催しました

第6回開催テーマ 『「調布の景観の魅力」について考えよう!』

平成28年10月18日(火)に開催した第6回市民検討会についてご紹介します。今回は、景観審議会会長、早稲田大学大学院の先生と学生の皆さんをお招きして大学院の授業で制作された、調布を題材とする映像作品の上映を行いました。委員の皆さんには、映像作品を通じて調布の景観について再発見してもらい、上映後には参加者全員で意見交換を行い、新たに気づいた調布の景観の魅力についてご意見をいただきました。

映像作品をもとに、調布の景観を再発見しよう!

調布を題材として、色々な切り口でつくられた映像作品について、解説を聞きながら鑑賞し、普段、見過ごしていた「調布の景観」を再発見することができました。

映像を通じて調布の景観を再発見できた!



映像作品について

早稲田大学大学院「景観地域デザイン特論」

早稲田大学大学院の建築学専攻の学生が、地域を取材し、映像作品を制作するという実習形式の授業で、これまで、新宿や築地などを対象としてきましたが、今回は調布市を対象としています。学生が企画立案から撮影・編集まで全て行っています。新鮮な切り口で楽しめる10作品が制作されました。



調布の景観について意見交換をしよう!

映像作品を制作した学生、先生を加えて、映像作品や調布の景観に関する意見交換を行いました。意見交換での主な内容をご紹介します。

調布の景観で気になる点はありませんか?

はじめは、一般的な住宅地の街並みに退屈な印象を受けましたが、何回か訪れるたびに新たな発見があり、その発見を作品に活かせると思っています。



制作を通して、実際に調布に住んでみたいと感じましたか?

市民により作られている緑も豊富で、地形も平坦なところが多いことから、自転車での散策などがしやすく住みやすい街だと感じました。



街のイメージとして駅前景観は重要だと思います。地下化に伴い調布駅前の景観が大きく変化していますが、どのように感じましたか?

街には変化があり、どれが本来の形(景観)なのかは意見が分かれます。ただ、変化は悪いことばかりではなく、変化により新たな景観をつくっていくことも人の役割ではないかと思っています。



意見交換の中でこの授業を担当した、景観アドバイザーの石川先生にご意見をいただきました。



石川 初 先生
(慶應義塾大学大学院 教授)
(早稲田大学大学院 非常勤講師)

○普段は何気ないものだが、作品を通じて調布の景観の魅力を感じ取っていただけたと思います。

深大寺をはじめとした「歴史」、「緑」、「水」など思い浮かぶキーワードがあり、それらが調布の景観とどのような繋がりがあるのかを様々な視点で紹介できた映像作品であったと思います。

街のイメージとして「駅」は大きなポイントになります。駅をテーマにした作品がなかったのは、工事中ということもあると思いますが、調布駅をはじめとする3駅の地下化により、駅前の風景が変化したことが影響したのかもしれない。取り上げられる景観も変化していくことは興味深いことだと思います。